

米をめぐる状況について

令和 6 年 9 月
農林水産省

目 次

【① 令和 6 年産の作柄概況・作付意向】

- 令和 6 年産水稻の 8 月 15 日現在における作柄概況 3
- 令和 6 年産に向けた作付意向（令和 6 年 6 月末時点） 4

【② 令和 5 年産の販売・在庫状況】

- 主食用米等の令和 5/6 年及び令和 6/7 年の需給見通し 8
- 米の販売数量及び民間在庫の推移（令和 6 年 7 月） 9
- 民間在庫量と需要量の比率の推移 1 0
- 相対取引価格の推移 1 1
- 令和 5 年産米の相対取引価格 1 2
- 令和 5 年産の全国農業地域・都道府県別作況指数 1 3
- 令和 5 年産水稻の作付面積及び収穫量 1 4
- 令和 5 年産の農産物検査等級の低下等による精米歩留まりの減少について 1 5
- 令和 5/6 年の 4 千トン以上の販売事業者の実需者への販売数量 1 6
- 消費者物価指数の推移 1 7

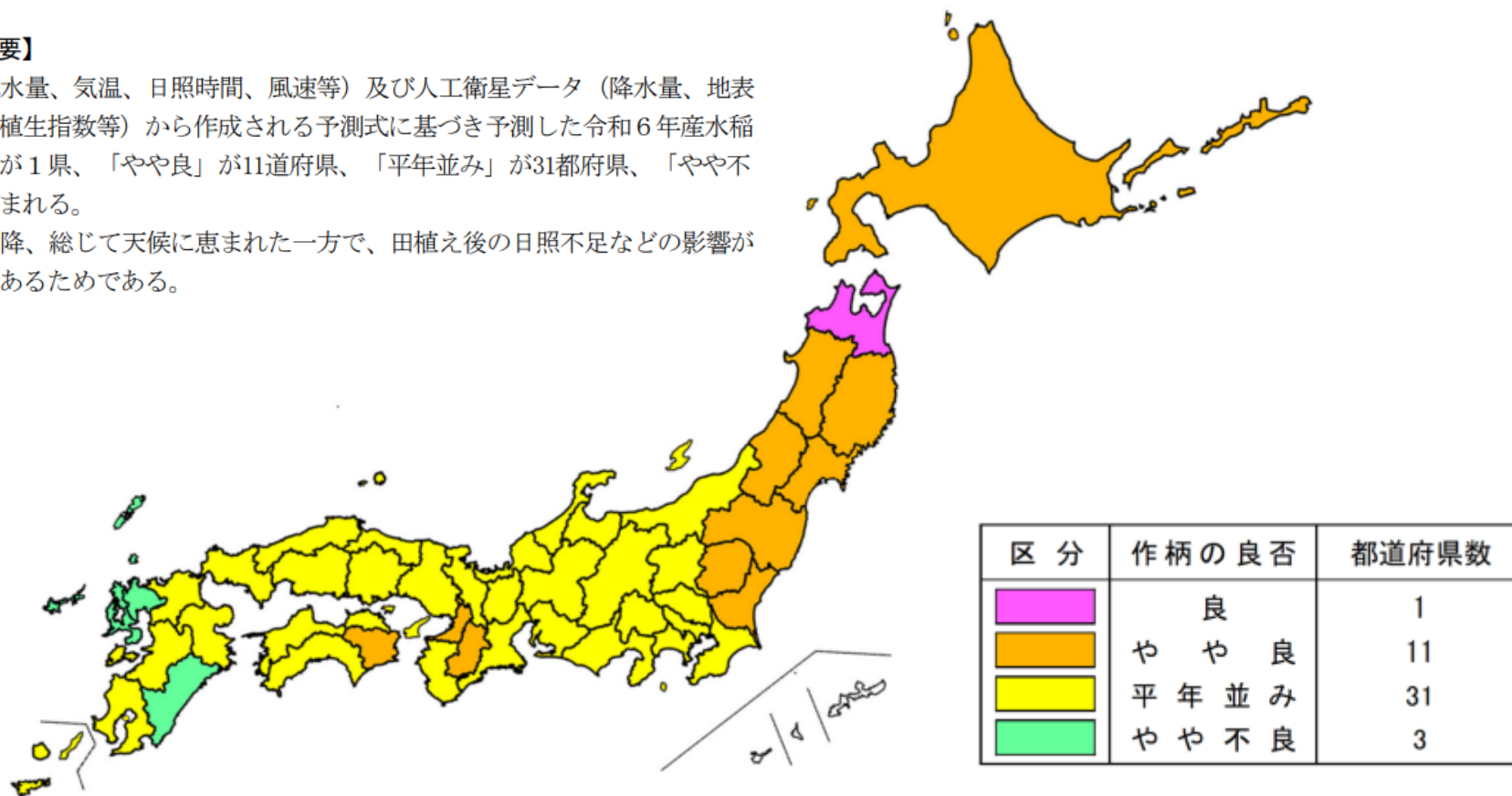
① 令和6年産の作柄概況・作付意向

令和6年産水稻の8月15日現在における作柄概況

【作柄予測結果の概要】

気象データ（降水量、気温、日照時間、風速等）及び人工衛星データ（降水量、地表温度、日射量、植生指数等）から作成される予測式に基づき予測した令和6年産水稻の作柄は、「良」が1県、「やや良」が11道府県、「平年並み」が31都府県、「やや不良」が3県と見込まれる。

これは、5月以降、総じて天候に恵まれた一方で、田植え後の日照不足などの影響が見込まれる地域もあるためである。



- 作柄概況（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。
- 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県は早期栽培を含まない普通栽培のみの作柄の良否である。
- 沖縄県については、第二期稲が田植終期に達していないため表章していない。
- 作柄の良否は、気象データ及び人工衛星データを説明変数、10a 当たり予想収量を目的変数として予測式（重回帰式）を作成し、予測したものである。なお、10a 当たり予想収量は、未確定の要素が多いことから公表することとしていない。
- 作柄の良否の表示区分は、「良」が対平年比 106%以上、「やや良」が 105～102%、「平年並み」が 101～99%、「やや不良」が 98～95%に相当する。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況（令和6年6月末時点）） ①

- 6月末時点での各都道府県の主食用米の作付意向は、5年産と比べて、増加傾向16県、前年並み18県、減少傾向13県。
- 戦略作物については、加工用米、新市場開拓用米（輸出用米等）及びWCS用稲を増加傾向とする県が多い。特にWCS用稲については4月末時点と比較して、増加傾向とする県が25県から39県に増加。他方で、飼料用米は42県とほとんどの県で減少傾向。

【令和6年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和6年6月末時点）】下段〔 〕は4月末時点の作付意向

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場 開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔 稲発酵粗 飼料用稲 〕	麦	大豆	
前年より 増加傾向	16県 〔11県〕	20県 〔20県〕	29県 〔26県〕	19県 〔20県〕	2県 〔1県〕	39県 〔25県〕	17県 〔24県〕	6県 〔7県〕	6県 〔5県〕
前年並み	18県 〔25県〕	8県 〔10県〕	4県 〔6県〕	1県 〔9県〕	2県 〔9県〕	3県 〔15県〕	11県 〔10県〕	8県 〔12県〕	2県 〔5県〕
前年より 減少傾向	13県 〔11県〕	16県 〔14県〕	5県 〔6県〕	26県 〔16県〕	42県 〔36県〕	4県 〔6県〕	17県 〔11県〕	31県 〔26県〕	23県 〔21県〕

注1：令和6年産の意向（増加傾向、前年並み、減少傾向）は、5年産実績との比較。
2：比較している主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況（令和6年6月末時点））②

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
全国計	124.2万			48,797		9,091		7,587		133,925		53,055		104,958		88,164	
北海道	82,200	↗	↗	6,920	↘	1,974	↗	143	↗	6,788	↘	1,594	↗	34,172	↘	17,926	↘
青森	33,800	↗	↗	787	↘	321	↗	12	↘	7,930	↘	788	↗	557	↘	4,832	→
岩手	42,800	→	→	1,283	→	417	↗	30	↘	5,739	↘	2,396	↗	3,520	→	4,218	↘
宮城	57,200	↗	↗	626	↗	894	↗	103	↘	9,801	↘	2,757	↗	2,188	↗	9,542	↘
秋田	69,900	↗	→	8,264	↗	500	↗	329	↗	4,265	↘	1,235	↗	182	↘	8,713	↗
山形	52,400	→	→	4,516	→	440	↗	112	↘	5,138	↘	1,239	↗	74	↗	4,658	↘
福島	53,100	↗	↗	448	↘	142	↗	12	↗	11,722	↘	1,079	↗	340	→	909	↘
茨城	57,800	↗	↗	947	↗	762	↗	55	↗	13,886	↘	653	↘	4,038	→	775	↘
栃木	47,200	↗	↗	1,513	↗	70	↘	1,418	↘	15,069	↘	2,177	↗	7,501	→	420	↘
群馬	12,400	↗	↗	1,389	↘	0	↗	168	↗	1,661	↘	621	↗	2,187	↗	119	↗
埼玉	27,500	↗	→	144	↗	52	↗	769	↗	3,605	↘	124	→	1,877	↗	383	↘
千葉	45,800	↗	↗	1,672	↗	35	↗	135	↘	10,154	↘	1,316	↗	445	↘	263	→
東京	111	→	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,850	→	→	-	-	-	-	-	↗	13	↘	2	↗	4	→	6	→
新潟	100,600	→	→	7,093	↘	1,586	↗	1,784	↘	4,032	↘	533	↗	189	↗	3,997	↘
富山	31,200	→	→	1,220	↘	342	↗	266	↗	2,096	↘	480	↗	2,834	→	4,165	↘
石川	20,800	→	→	481	↗	65	↗	371	↘	1,131	↘	127	↘	1,198	↗	981	→
福井	21,500	↗	↗	322	↗	132	↗	213	↘	1,976	↘	160	↗	5,210	→	76	↗
山梨	4,660	↘	↘	62	↗	-	-	29	↘	21	↘	18	↗	62	→	99	→
長野	29,300	→	→	733	→	245	↗	24	↗	429	↘	265	↗	2,553	↘	671	↘
岐阜	19,700	→	→	741	↗	78	↗	65	↘	3,496	↘	303	↗	3,689	→	359	↘
静岡	15,000	→	→	105	↘	1	→	8	↗	1,011	↘	330	→	244	↗	38	↘
愛知	24,700	↗	↗	573	↗	44	→	278	↗	2,040	↘	182	→	5,646	→	70	→
三重	24,900	→	→	168	→	54	↗	95	↘	2,426	↘	303	↗	7,050	↗	188	↘

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について（令和6年産第3回中間的取組状況(令和6年6月末時点)）③

都道府県	主食用米			戦略作物												備蓄米	
	5年産実績	6年産意向(対前年実績)		加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆	
		6月末時点 (今回公表)	4月末時点 (前回公表)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)	5年産実績	6年産意向 (対前年実績)
滋賀	27,000	↗	→	608	↘	205	↗	58	↘	2,033	↘	310	↗	8,222	↗	591	↘
京都	13,200	→	→	551	↘	25	↗	10	↗	133	↘	158	↗	290	↘	266	↘
大阪	4,430	↘	↘	0	↗	-	-	5	↘	6	↘	4	↗	2	↘	8	↘
兵庫	32,500	↘	↘	674	→	185	→	48	↘	819	↘	972	↗	1,932	↗	1,658	↘
奈良	8,200	→	→	19	↘	-	-	36	↘	50	↘	43	↘	68	→	22	→
和歌山	5,780	→	→	-	-	-	-	1	↗	3	↘	4	↘	4	↗	11	↘
鳥取	11,700	→	→	25	↘	33	↗	0	↗	821	↘	392	↗	68	↗	619	↘
島根	15,900	↘	↘	252	↘	2	→	7	↗	804	↘	745	↗	280	↘	631	↘
岡山	26,900	↗	↘	295	↘	189	↘	120	↘	1,824	↘	475	↗	1,269	↘	1,116	↘
広島	20,500	↘	→	351	↗	44	↗	96	↘	443	↘	708	↗	318	↘	225	↗
山口	16,000	↘	↘	976	→	86	↗	43	↘	1,108	↘	410	↗	711	↗	816	↘
徳島	9,480	↗	↗	20	→	40	↘	11	↗	1,007	↘	247	↗	55	↘	7	↘
香川	10,100	↘	↘	48	↗	28	↗	7	↘	195	↗	269	↗	1,322	↘	39	↘
愛媛	12,800	→	→	34	↗	-	-	6	↘	344	→	217	↗	430	↗	313	↗
高知	10,200	→	→	84	↗	-	-	18	↗	1,135	↘	321	↗	5	↘	54	↘
福岡	32,300	↘	→	224	↘	12	↗	322	↘	2,475	↘	2,068	↗	1,141	↘	7,794	↘
佐賀	21,700	↗	→	406	↘	8	↗	19	↘	829	↘	2,246	↗	1,412	↘	6,251	↗
長崎	10,000	↘	↘	6	↘	10	↘	4	↗	117	↗	1,549	↗	78	↗	256	↘
熊本	28,900	→	→	672	→	41	↗	309	↘	1,646	↘	9,167	↗	797	↘	2,246	↘
大分	18,100	↘	↘	148	↗	2	↗	13	↘	1,932	↘	2,758	↗	703	↗	1,317	↘
宮崎	12,700	↘	↘	1,978	↗	22	↗	22	→	887	→	7,207	↗	18	↘	207	→
鹿児島	15,800	↘	↘	1,389	↗	1	↘	12	↘	880	↘	4,081	↗	75	↗	310	↘
沖縄	544	↘	→	30	↗	-	-	2	↗	3	↘	22	↗	-	-	-	-

注1：主食用米、戦略作物及び備蓄米の「6年産意向(対前年実績)」は、5年産実績と比較し、「↗：増加傾向」(1%超増加)、「→：前年並み」(増減1%以内)、「↘：減少傾向」(1%超減少)で分類。
2：主食用米の5年産実績は、令和5年12月統計部公表の主食用作付面積。
3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲の5年産実績は、取組計画認定面積。
4：麦・大豆の5年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。
5：備蓄米の5年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

② 令和5年産の販売・在庫状況

主食用米等の令和5/6年の需給実績及び令和6/7年の需給見通し（令和6年7月公表基本指針）

【令和5/6年の主食用米等の需給実績（速報値）】

(単位: 万トン)

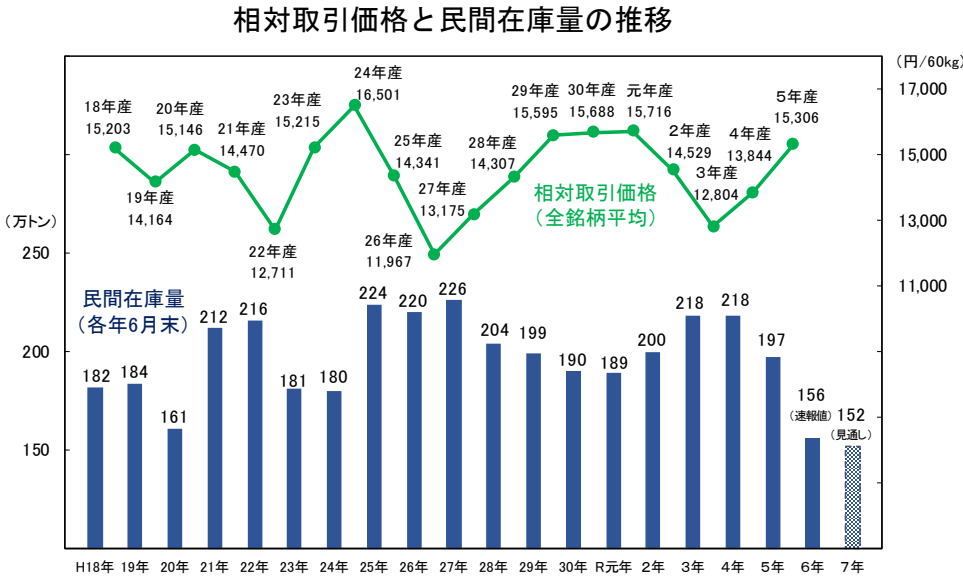
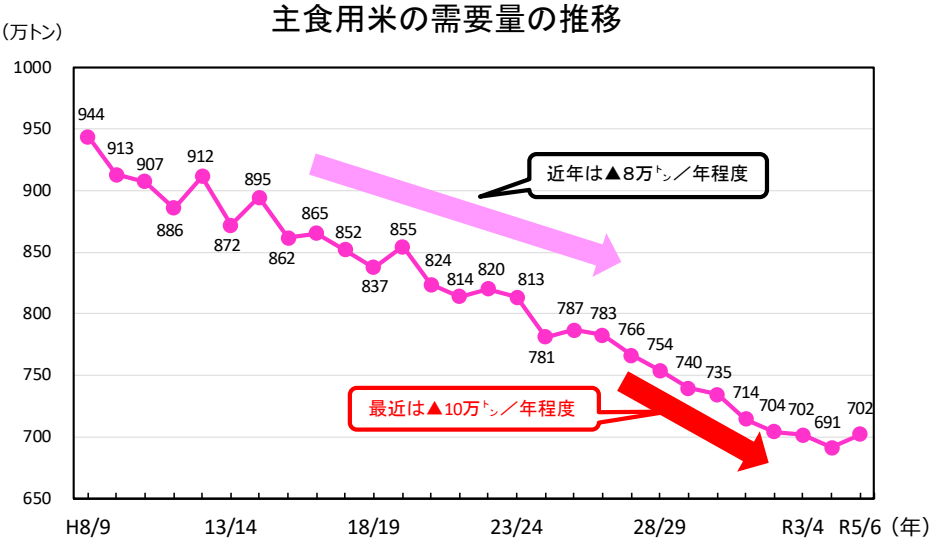
令和5年6月末民間在庫量	A	197
令和5年産主食用米等生産量	B	661
令和5/6年主食用米等供給量計 C=A+B		858
令和5/6年主食用米等需要量	D	702
令和6年6月末民間在庫量 E=C-D		156

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和6年6月末民間在庫量	E	156
令和6年産主食用米等生産量	F	669
令和6/7年主食用米等供給量計 G=E+F		825
令和6/7年主食用米等需要量	H	673
令和7年6月末民間在庫量 I=G-H		152

注1：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和5年産は出回りから6年7月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和6年7月）

- 令和5年1月～12月の米の販売数量の対前年比は、小売事業者向けで+2%、中食・外食事業者等向けは+5%となっており、販売数量の計では+3%となっている。また、令和6年7月の対前年同月比は、小売事業者向けで+4%、中食・外食事業者等向けは▲1%となっており、販売数量の計では+2%となっている。
- 令和6年7月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差▲40万トンの82万トンとなっており、出荷段階は対前年差▲38万トンの58万トン、販売段階は対前年差▲3万トンの25万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	102%	106%	108%	107%	108%	106%	114%	104%					
（※令和元年との比較）	(103%)	(110%)	(111%)	(108%)	(109%)	(114%)	(116%)	(104%)					
中食・外食事業者等向け	105%	103%	106%	100%	99%	103%	98%	99%					
（※令和元年との比較）	(97%)	(96%)	(100%)	(95%)	(94%)	(102%)	(97%)	(97%)					
販売数量計	103%	105%	107%	104%	104%	105%	107%	102%					
（※令和元年との比較）	(101%)	(103%)	(106%)	(102%)	(102%)	(108%)	(107%)	(100%)					

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000㌧以上の販売事業者（年間取扱数量約150万㌧（令和5年産主食用米等の生産量661万㌧の約2割））である。
2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3：令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年（4月までは平成31年）の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移（家計調査）】

		5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米	購入数量	56.65	3.52	3.92	4.49	4.38	4.87	4.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	前年同月比	98.7%	94.6%	96.6%	105.6%	97.1%	109.4%	109.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
パン	前年同月比	98.0%	103.9%	101.2%	104.0%	101.4%	99.7%	96.9%						
めん類	前年同月比	93.8%	99.2%	100.0%	99.6%	94.1%	97.7%	103.7%						

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
5 / 6 年	出荷＋販売段階	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115
	出荷段階	95	78	161	235	249	246	228	202	171	139	112	84
	販売段階	27	26	38	54	54	52	46	42	43	41	34	31
6 / 7 年	出荷＋販売段階	82											
	対前年差	▲40											
	出荷段階	58											
	対前年差	▲38											
販売段階		25											
	対前年差	▲3											

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
3：期間については、6/7年であれば、令和6年7月～7年6月である。

民間在庫量と需要量の比率の推移

- 令和6年7月末の在庫量は82万トンとなっており、平成23年や平成24年とほぼ同じ水準となっているが、需要量の減少により、令和6年7月末の在庫量を年間の需要量で割った比率は12%と、平成23年や平成24年の7月末の10%よりは高い水準となっている。

【在庫率の推移】

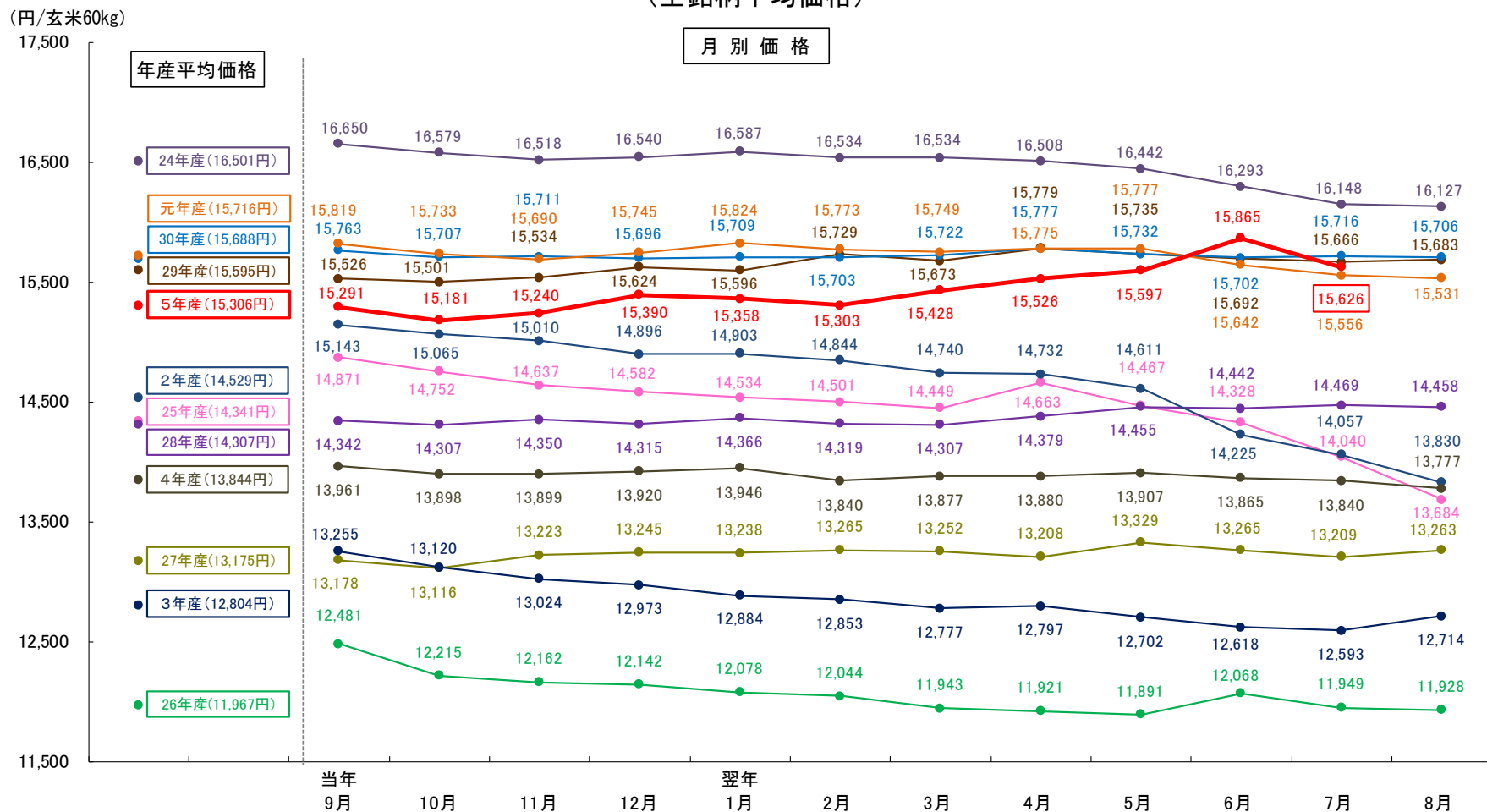
年	需要実績	上段：在庫量（出荷段階＋販売段階） 下段：在庫率（月末の在庫量÷年間の需要量）												基本指針 ベース 6月
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
20/21	824	66 8.0%	48 5.8%	134 16.3%	325 39.5%	351 42.6%	346 42.0%	322 39.1%	293 35.6%	257 31.2%	221 26.8%	195 23.7%	148 18.0%	212 25.8%
21/22	814	113 13.9%	93 11.4%	164 20.1%	349 42.9%	380 46.7%	372 45.7%	347 42.6%	320 39.3%	267 32.8%	228 28.0%	191 23.5%	154 18.9%	216 26.5%
22/23	820	118 14.4%	102 12.4%	212 25.9%	351 42.8%	372 45.4%	363 44.3%	339 41.3%	304 37.1%	238 29.0%	200 24.4%	156 19.0%	118 14.4%	181 22.0%
23/24	813	83 10.2%	55 6.8%	134 16.5%	298 36.6%	327 40.2%	320 39.3%	291 35.8%	259 31.8%	224 27.5%	185 22.7%	147 18.1%	113 13.9%	180 22.1%
24/25	781	78 10.0%	62 7.9%	167 21.4%	337 43.1%	357 45.7%	351 44.9%	324 41.5%	293 37.5%	264 33.8%	229 29.3%	190 24.3%	157 20.1%	224 28.6%
25/26	787	120 15.3%	104 13.2%	210 26.7%	368 46.8%	393 50.0%	389 49.5%	358 45.5%	330 42.0%	291 37.0%	258 32.8%	223 28.3%	190 24.2%	220 28.0%
26/27	783	119 15.2%	103 13.2%	198 25.3%	344 44.0%	368 47.0%	365 46.6%	343 43.8%	314 40.1%	280 35.8%	243 31.1%	208 26.6%	168 21.5%	226 28.9%
27/28	766	130 17.0%	112 14.6%	184 24.0%	321 41.9%	341 44.5%	337 44.0%	314 41.0%	287 37.5%	254 33.2%	218 28.5%	183 23.9%	147 19.2%	204 26.6%
28/29	754	114 15.1%	93 12.3%	177 23.5%	314 41.6%	338 44.8%	329 43.6%	306 40.6%	282 37.4%	248 32.9%	212 28.1%	177 23.5%	141 18.7%	199 26.4%
29/30	740	108 14.6%	88 11.9%	155 21.0%	283 38.3%	315 42.6%	311 42.0%	288 38.9%	263 35.6%	234 31.6%	201 27.2%	167 22.6%	134 18.1%	190 25.7%
30/元	735	102 13.9%	87 11.8%	151 20.6%	288 39.2%	305 41.5%	301 41.0%	282 38.4%	258 35.1%	227 30.9%	192 26.1%	161 21.9%	131 17.8%	189 25.7%
元/2	714	99 13.9%	79 11.1%	161 22.5%	294 41.2%	315 44.1%	318 44.5%	295 41.3%	266 37.2%	233 32.6%	204 28.6%	178 24.9%	154 21.6%	200 28.0%
2/3	704	119 16.9%	101 14.3%	190 27.0%	324 46.0%	344 48.9%	342 48.6%	321 45.6%	293 41.6%	265 37.6%	230 32.7%	199 28.3%	173 24.6%	218 31.0%
3/4	702	138 19.7%	118 16.8%	214 30.5%	330 47.0%	351 50.0%	349 49.8%	326 46.5%	299 42.6%	270 38.5%	238 33.9%	204 29.1%	172 24.5%	218 31.0%
4/5	691	142 20.5%	122 17.7%	199 28.8%	313 45.3%	330 47.7%	328 47.5%	306 44.3%	280 40.5%	251 36.3%	219 31.7%	186 26.9%	153 22.1%	197 28.4%
5/6	702	123 17.5%	104 14.8%	199 28.4%	289 41.2%	303 43.2%	298 42.5%	274 39.0%	244 34.8%	214 30.5%	180 25.6%	145 20.7%	115 16.4%	156 22.2%
6/7	673	82 12.2%												

※22/23年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

相対取引価格の推移（平成24年産～令和5年産）

○ 令和5年産米の令和6年7月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差▲239円の15,626円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+1,462円の15,306円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額（平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%）を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（5年産は出回りから令和6年7月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

令和5年産米の相対取引価格（令和6年7月までの年産平均価格）

（単位：円／玄米60kg（税込））

産地品種銘柄		令和5年産 〔出回り～ 6年7月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年10月〕 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	15,620	14,058	+ 1,562
北海道	ゆめぴりか	16,418	15,451	+ 967
北海道	きらら397	15,051	13,520	+ 1,531
青森	まっしぐら	15,275	12,743	+ 2,532
青森	つがるロマン	15,493	12,986	+ 2,507
岩手	ひとめぼれ	15,154	13,619	+ 1,535
岩手	あきたこまち	15,095	13,420	+ 1,675
岩手	銀河のしずく	15,467	14,125	+ 1,342
宮城	ひとめぼれ	14,897	13,837	+ 1,060
宮城	つや姫	15,638	14,307	+ 1,331
宮城	ササニシキ	15,564	14,159	+ 1,405
秋田	あきたこまち	15,330	13,853	+ 1,477
秋田	ひとめぼれ	14,366	13,033	+ 1,333
秋田	めんこいな	14,163	12,819	+ 1,344
山形	はえぬき	14,751	12,963	+ 1,788
山形	つや姫	18,739	18,497	+ 242
山形	雪若丸	15,488	14,002	+ 1,486
福島	コシヒカリ（中通り）	14,929	12,728	+ 2,201
福島	コシヒカリ（会津）	15,396	14,468	+ 928
福島	コシヒカリ（浜通り）	15,138	12,999	+ 2,139
福島	ひとめぼれ	14,576	12,505	+ 2,071
福島	天のつば	14,244	12,230	+ 2,014
茨城	コシヒカリ	15,217	13,105	+ 2,112
茨城	あきたこまち	14,700	12,355	+ 2,345
茨城	ぶくまる	15,094	12,437	+ 2,657
栃木	コシヒカリ	15,126	13,302	+ 1,824
栃木	とちぎの星	14,522	12,338	+ 2,184
栃木	あさひの夢	14,192	12,102	+ 2,090
群馬	あさひの夢	15,355	12,690	+ 2,665
群馬	ゆめまつり	15,270	12,621	+ 2,649
埼玉	彩のかがやき	14,247	12,677	+ 1,570
埼玉	彩のきずな	14,415	12,699	+ 1,716
埼玉	コシヒカリ	15,011	13,118	+ 1,893
千葉	コシヒカリ	14,554	12,545	+ 2,009
千葉	ふさこがね	13,706	11,291	+ 2,415
千葉	ふさおとめ	13,951	11,346	+ 2,605
山梨	コシヒカリ	17,473	17,578	▲ 105
長野	コシヒカリ	15,851	14,933	+ 918
長野	あきたこまち	15,069	14,129	+ 940
静岡	コシヒカリ	15,560	14,838	+ 722

産地品種銘柄		令和5年産 〔出回り～ 6年7月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年10月〕 ②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	14,438	12,846	+ 1,592
静岡	にこまる	14,407	-	-
新潟	コシヒカリ（一般）	16,952	16,553	+ 399
新潟	コシヒカリ（魚沼）	20,737	21,021	▲ 284
新潟	コシヒカリ（佐渡）	17,437	17,037	+ 400
新潟	コシヒカリ（岩船）	17,239	16,922	+ 317
新潟	こしいぶき	14,611	13,286	+ 1,325
富山	コシヒカリ	15,873	14,984	+ 889
富山	てんたかく	14,936	13,474	+ 1,462
石川	コシヒカリ	15,672	14,383	+ 1,289
石川	ゆめみづほ	14,438	12,870	+ 1,568
福井	コシヒカリ	15,381	14,160	+ 1,221
福井	ハナエチゼン	13,877	12,474	+ 1,403
福井	あきさかり	14,185	12,744	+ 1,441
岐阜	ハツシモ	14,963	13,726	+ 1,237
岐阜	コシヒカリ	16,139	14,962	+ 1,177
岐阜	ほしじるし	13,896	13,476	+ 420
愛知	あいちのかおり	14,468	12,987	+ 1,481
愛知	コシヒカリ	-	13,741	-
愛知	大地の風	-	12,806	-
三重	コシヒカリ（一般）	14,729	13,220	+ 1,509
三重	コシヒカリ（伊賀）	15,085	13,660	+ 1,425
三重	キヌヒカリ	13,563	12,019	+ 1,544
滋賀	コシヒカリ	15,270	13,941	+ 1,329
滋賀	キヌヒカリ	13,966	12,347	+ 1,619
滋賀	みずかがみ	14,920	13,455	+ 1,465
京都	コシヒカリ	15,507	14,379	+ 1,128
京都	ヒノヒカリ	16,312	15,056	+ 1,256
京都	キヌヒカリ	14,154	12,688	+ 1,466
兵庫	コシヒカリ	16,154	15,007	+ 1,147
兵庫	ヒノヒカリ	13,963	12,617	+ 1,346
兵庫	キヌヒカリ	13,944	12,511	+ 1,433
奈良	ヒノヒカリ	14,400	12,989	+ 1,411
鳥取	きぬむすめ	14,401	12,692	+ 1,709
鳥取	コシヒカリ	14,968	13,426	+ 1,542
鳥取	ひとめぼれ	14,231	12,783	+ 1,448
島根	きぬむすめ	14,117	13,102	+ 1,015
島根	コシヒカリ	14,975	14,021	+ 954
島根	つや姫	14,741	13,900	+ 841
岡山	アケボノ	13,174	10,973	+ 2,201

産地品種銘柄		令和5年産 〔出回り～ 6年7月〕 ①	令和4年産 〔出回り～ 5年10月〕 ②	価格差 ①－②
岡山	きぬむすめ	13,726	12,120	+ 1,606
岡山	コシヒカリ	14,473	12,988	+ 1,485
広島	コシヒカリ	14,462	13,453	+ 1,009
広島	あきさかり	13,481	12,278	+ 1,203
広島	あきろまん	13,471	12,600	+ 871
山口	コシヒカリ	14,915	14,061	+ 854
山口	ひとめぼれ	14,062	13,084	+ 978
山口	きぬむすめ	14,010	-	-
徳島	コシヒカリ	14,137	12,978	+ 1,159
徳島	あきさかり	13,426	11,601	+ 1,825
香川	コシヒカリ	15,325	14,213	+ 1,112
香川	ヒノヒカリ	14,569	13,457	+ 1,112
香川	あきさかり	14,245	-	-
愛媛	コシヒカリ	14,298	13,179	+ 1,119
愛媛	ヒノヒカリ	13,821	12,579	+ 1,242
愛媛	あきたこまち	13,571	12,506	+ 1,065
高知	コシヒカリ	14,922	13,494	+ 1,428
高知	ヒノヒカリ	13,634	12,522	+ 1,112
福岡	夢つくし	15,466	14,504	+ 962
福岡	ヒノヒカリ	14,166	13,245	+ 921
福岡	元気つくし	15,446	14,478	+ 968
佐賀	さがびより	14,948	14,031	+ 917
佐賀	夢しずく	14,439	13,538	+ 901
佐賀	ヒノヒカリ	14,351	12,462	+ 1,889
長崎	にこまる	14,583	12,954	+ 1,629
長崎	なつほのか	14,209	12,698	+ 1,511
長崎	ヒノヒカリ	14,330	12,595	+ 1,735
熊本	ヒノヒカリ	14,825	12,822	+ 2,003
熊本	森のくまさん	14,470	12,465	+ 2,005
熊本	コシヒカリ	15,230	13,791	+ 1,439
大分	ヒノヒカリ	14,449	13,250	+ 1,199
大分	ひとめぼれ	14,531	13,201	+ 1,330
大分	つや姫	15,024	13,861	+ 1,163
宮崎	コシヒカリ	14,582	13,815	+ 767
宮崎	ヒノヒカリ	15,221	14,276	+ 945
鹿児島	ヒノヒカリ	14,758	13,878	+ 880
鹿児島	あきほなみ	15,127	14,479	+ 648
鹿児島	コシヒカリ	14,670	14,172	+ 498
全銘柄平均価格		15,306	13,844	+ 1,462

注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和5年産は出回りから6年7月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量5,000トン以上等）。

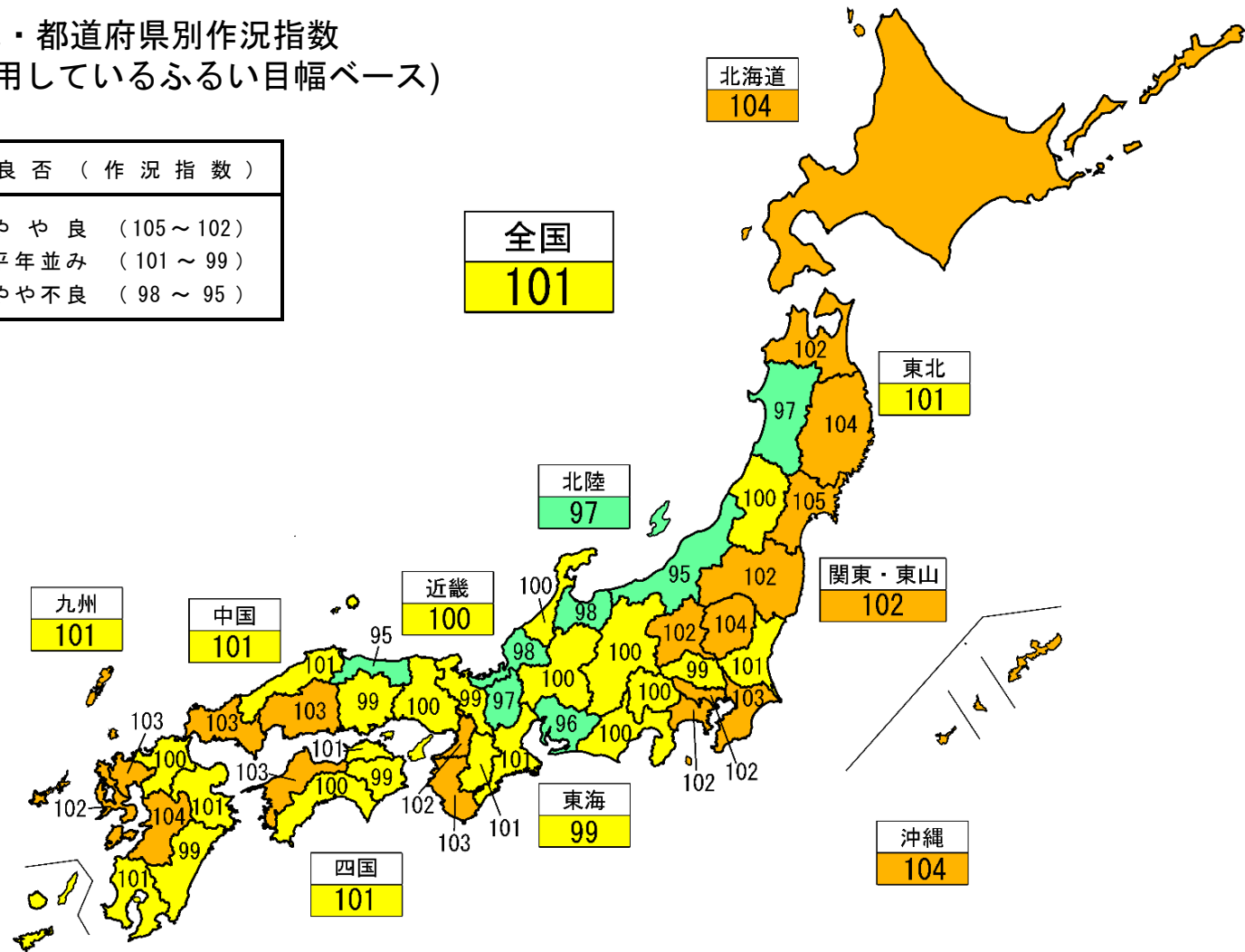
2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

令和 5 年産の全国農業地域・都道府県別作況指数

全国農業地域・都道府県別作況指数
(農家等が使用しているふりい目幅ベース)

作柄の良否（作況指数）	
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふりい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

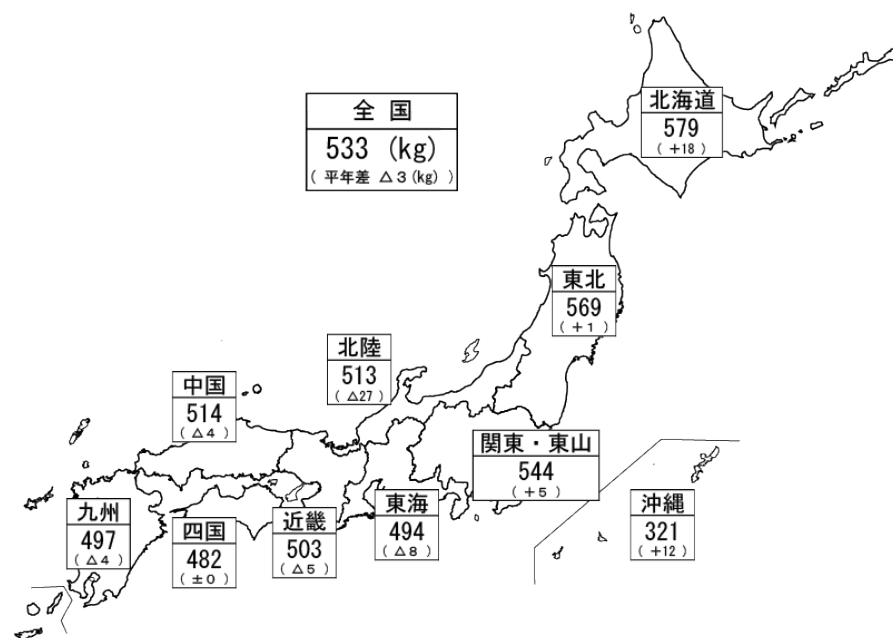
令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000haで、前年産に比べ1万1,000ha減少した。うち主食用作付面積は124万2,000haで、前年産に比べ9,000ha減少した。
- 全国の10a当たり収量は533kg。
- 以上の結果、収穫量（子実用）は716万5,000tで、前年産に比べ10万4,000t減少した。うち主食用の収穫量は、661万tで、前年産に比べ9万1,000t減少した。
- なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101。

【令和5年産水稻の作付面積及び収穫量】

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 （主食用）	作況指数
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産 との比較 対差	実 数 ③＝①×②	前年産との比較				
		対差	対比				対差	対比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,344,000	△ 11,000	99	533	△ 3	7,165,000	△ 104,000	99	1,242,000	6,610,000	101
北 海 道	93,300	△ 300	100	579	△ 12	540,200	△ 13,000	98	82,200	475,900	104
東 北	349,100	800	100	569	10	1,988,000	40,000	102	309,200	1,759,000	101
北 陸	197,700	△ 500	100	513	△ 28	1,015,000	△ 57,000	95	174,000	894,000	97
関東・東山	239,500	△ 600	100	544	6	1,302,000	11,000	101	227,500	1,238,000	102
東 海	86,800	△ 300	100	494	△ 10	428,700	△ 10,100	98	84,300	416,500	99
近 畿	94,700	△ 1,700	98	503	△ 14	476,100	△ 22,300	96	91,200	457,800	100
中 国	94,000	△ 1,800	98	514	△ 10	483,100	△ 18,500	96	90,900	467,800	101
四 国	43,100	△ 1,500	97	482	△ 15	207,700	△ 13,900	94	42,700	205,500	101
九 州	145,300	△ 4,800	97	497	3	722,000	△ 19,300	97	139,500	693,800	101
沖 縄	576	△ 63	90	321	20	1,850	△ 70	96	544	1,750	104

【全国農業地域別10a当たり収量】



- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10a当たり収量及び収穫量（子実用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 5 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和5年産の農産物検査等級の低下等による精米歩留まりの減少について

- 農産物検査の等級比率を基に試算した精米歩留まりの過去10年（平成25年～令和4年）平均値は91.4%。
- 令和5年は、高温・渇水の影響により1等比率が前年より約18%減少。これにより、等級比率を基に試算した精米歩留まりは90.6%と過去10年の平均との比較で▲0.8%減少。
- 一方、5年産の精米歩留まりの減少を大手卸売業者（6社）から聞き取ったところ、産地銘柄や工場ごとに+1.8%～▲3.0%とばらつきがあるが、6社の主要銘柄別の精米歩留まりを単純平均すると▲1.4%減少。

<精米歩留まりの推移(試算)>

年産	水稻うるち玄米検査等級比率 (規格外を除く)			主食用米生産量④ (玄米千トン)				精米流通量⑧=(⑨+⑩+⑪) (精米千トン)				歩留り 減少率 ⑧/④
	1等 ①	2等 ②	3等 ③	合計	1等 ⑤ (④×①)	2等 ⑥ (④×②)	3等 ⑦ (④×③)	合計	1等 ⑨ (⑤×92%)	2等 ⑩ (⑥×89%)	3等 ⑪ (⑦×85%)	
平成25	80.4%	17.7%	1.9%	8,182	6,579	1,449	154	7,473	6,052	1,290	131	91.3%
26	83.0%	15.6%	1.4%	7,882	6,545	1,229	107	7,207	6,022	1,094	91	91.4%
27	83.9%	14.4%	1.7%	7,442	6,244	1,069	128	6,806	5,745	952	109	91.4%
28	84.8%	13.8%	1.4%	7,496	6,357	1,034	104	6,858	5,849	921	89	91.5%
29	83.9%	14.5%	1.6%	7,306	6,131	1,059	116	6,682	5,640	942	99	91.5%
30	82.1%	16.1%	1.8%	7,327	6,014	1,178	136	6,696	5,533	1,048	115	91.4%
令和元	74.7%	22.2%	3.0%	7,261	5,427	1,614	220	6,616	4,993	1,436	187	91.1%
2	81.2%	16.8%	2.0%	7,226	5,866	1,216	145	6,601	5,396	1,082	123	91.4%
3	84.5%	14.1%	1.4%	7,007	5,923	986	97	6,410	5,449	878	83	91.5%
4	80.1%	17.9%	2.1%	6,701	5,366	1,197	138	6,119	4,937	1,065	118	91.3%
5	61.8%	31.0%	7.2%	6,610	4,088	2,048	474	5,987	3,761	1,823	403	90.6%

過去10年平均

91.4%

▲0.8%

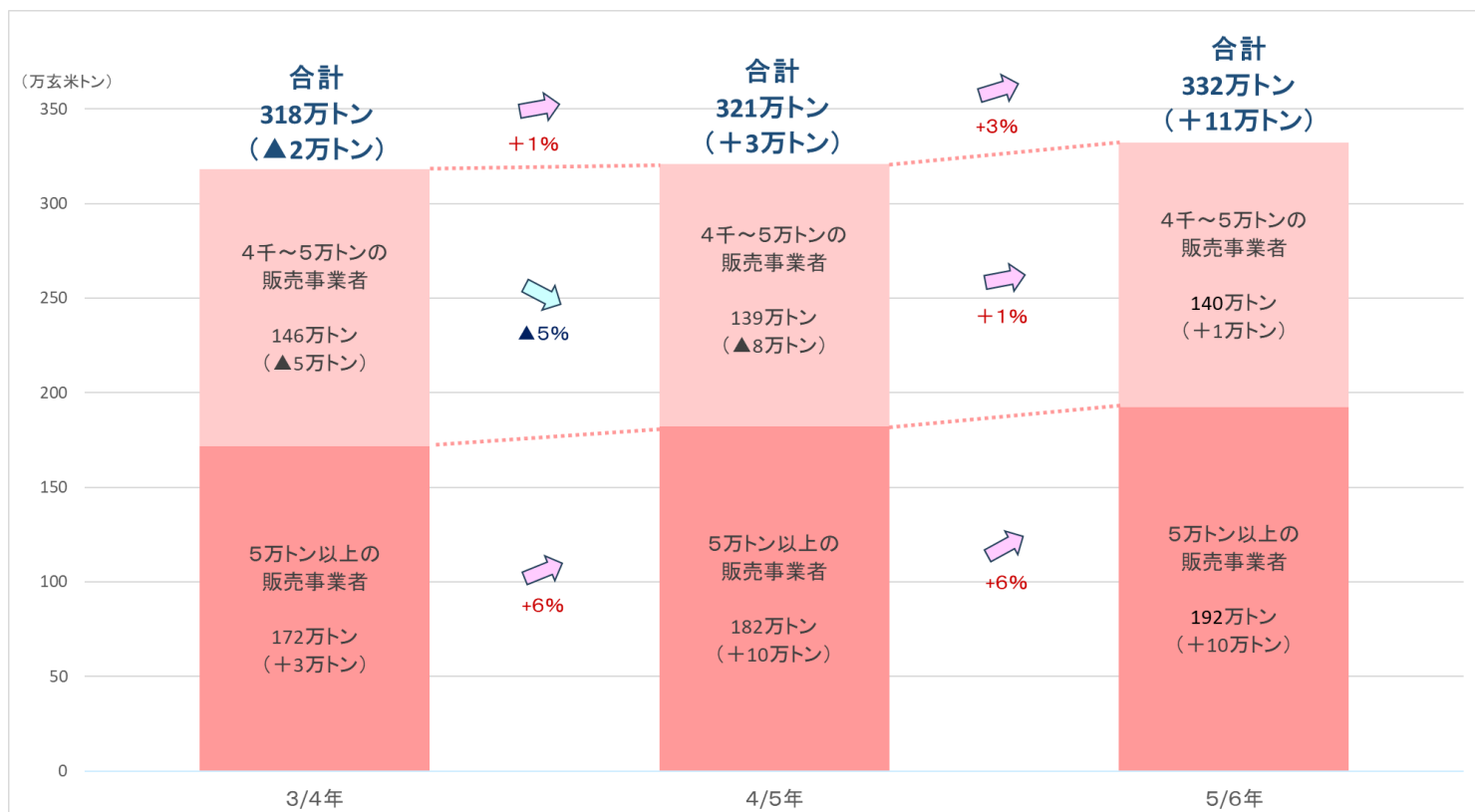
平均値との差

注1 令和5年産の農産物検査結果は3月31日現在(速報値)の数値。
注2 等級ごとの精米歩留まりは、「農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会資料(農産物規格・検査の情勢(令和2年9月))」の精米歩留まり(1等92%、2等89%、3等85%)を使用して試算。

令和5/6年の4千トン以上の販売事業者の実需者への販売数量

- 年間玄米仕入数量が4千トン以上の事業者（販売数量の約9割をカバー）の実需者への令和5/6年の販売数量（在庫数量等調査のとう精払出数量を基に試算）は、対前年比103%。
- 規模階層ごとにみると、5万トン以上の販売事業者の販売量は対前年比+6%、4千トン以上5万トン未満の販売量は対前年比は+1%と、昨年と異なり、どちらの規模階層も販売が増加。

【販売事業者（規模別）の販売数量の推移】



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：販売数量は、在庫数量等に関する調査におけるとう精払出数量（各年7月～翌年6月まで）を基に算出。

注2：販売数量は、玄米ベース。

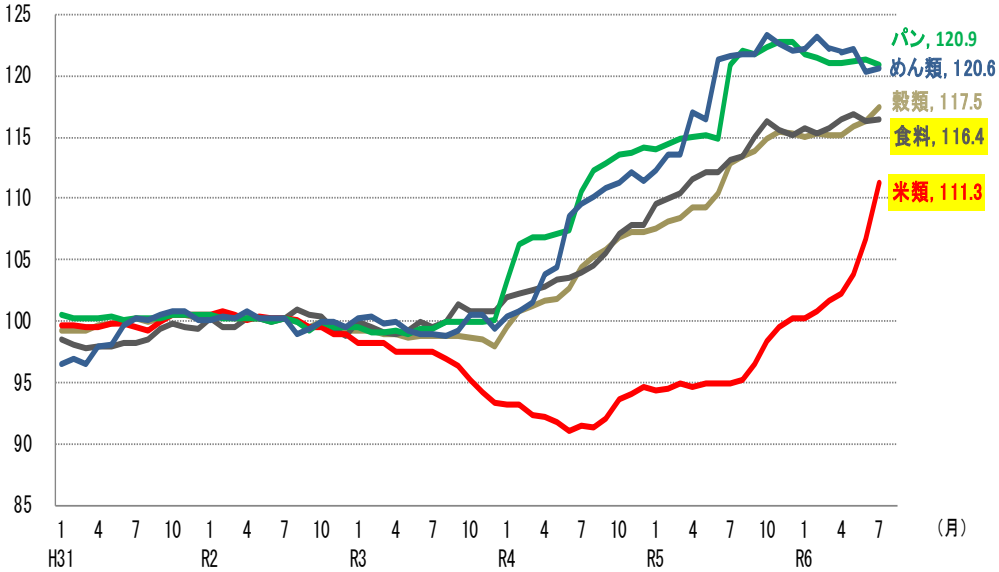
注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

消費者物価指数の推移

○ 消費者物価指数（総務省、令和2年基準）は、食料全体が116.4、うちパンは120.9、めん類は120.6に対して、米類は111.3と相対的に上昇は緩やか。

(令和2年＝100、指数)

	食料		穀類		米類 (うるち米)		うるち米 (コシヒカリ)		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
令和元年(平均)	98.7	0.4%	99.9	0.9%	99.9	0.2%	100.1	0.9%	100.3	0.9%	99.1	2.2%
2年(平均)	100.0	1.4%	100.0	0.1%	100.0	0.1%	100.0	▲0.1%	100.0	▲0.3%	100.0	1.0%
3年(平均)	100.0	0.0%	98.8	▲1.2%	96.8	▲3.2%	96.7	▲3.3%	99.5	▲0.5%	99.7	▲0.3%
4年(平均)	104.5	4.5%	103.7	5.0%	92.6	▲4.3%	93.3	▲3.5%	109.6	10.1%	107.1	7.4%
5年(平均)	112.9	8.1%	111.5	7.5%	96.1	3.8%	96.3	3.2%	118.4	8.1%	118.9	11.1%
令和6年 1月	115.7	5.7%	115.0	7.0%	100.3	6.2%	100.1	5.3%	121.8	6.9%	122.1	8.7%
2月	115.3	4.8%	115.3	6.6%	100.9	6.8%	100.2	5.3%	121.4	6.0%	123.1	8.4%
3月	115.7	4.8%	115.2	6.3%	101.7	7.2%	100.8	5.8%	121.0	5.4%	122.2	7.6%
4月	116.4	4.3%	115.1	5.3%	102.2	7.9%	100.8	5.8%	121.0	5.2%	121.9	4.2%
5月	116.8	4.1%	115.8	6.0%	103.9	9.5%	102.0	8.1%	121.1	5.2%	122.1	4.9%
6月	116.3	3.6%	116.3	5.4%	106.7	12.3%	104.6	9.7%	121.3	5.5%	120.3	▲0.8%
7月	116.4	2.9%	117.5	4.2%	111.3	17.2%	109.6	15.6%	120.9	0.0%	120.6	▲0.8%



資料：総務省「消費者物価指数」令和2年基準、品目別価格指数（全国）
注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
2：穀類は、米類（うるち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
3：令和元年～5年のデータは年平均、6年は月次データである。